



馬

観覧
無料



のカタチ

祈りとくらしの工芸品

2026

3/14(土)~5/31(日)

◆会場 高槻市立しろあと歴史館

◆開館時間 10:00~17:00(入館は16:30まで)

◆休館日 月曜日(5/4は開館)、4/30・5/7

主催:高槻市 協力:NPO法人高槻市文化財スタッフの会



◆体験教室◆

「紙で作ろう! イタヤ馬」

5/3(日) 10:30~15:00

会場:しろあと歴史館

申込不要 無料

先着100人



◆連続講座◆(全2回)

4/5必着・抽選50人

「馬のよそおい 馬のまじない」

① 4/19(日) 市内の神社に伝わる馬具

講師:千田康治(しろあと歴史館長)

② 4/26(日) 馬の伝説・行事と郷土玩具

講師:早田さち子(しろあと歴史館専門員)

各回14:00~15:30 会場:しろあと歴史館 無料

※申込方法:市簡易電子申込(二次元コードから)、当館窓口、もしくは往復はがき(講座名・氏名・住所・電話番号、当館宛)



- ⑩ 松倉観音(岐阜県) 紙絵馬
- ⑪ 手向山八幡宮(奈良県) 立絵馬
- ⑫ 磐手社神社(高槻市) 青貝螺鈿鞍
- ⑬ 毛植人形(京都府) 飾馬
- ※①~⑪・⑬ 当館蔵
- ⑫ 磐手社神社蔵(当館寄託)

馬のカタマ

祈りと
くらしの
工芸品

端午節句の飾馬
(高知県 香泉人形)

令和8年(2026)は十二支の午(馬)年にあたります。

馬は古くから、人や物を運んだり、農作業をたすけるなどして、人びとのくらしを支えてきました。馬の健康は豊かさにつながることから、馬の寺社参詣や、馬をねぎらう風習が各地にみられます。

また、馬は神の乗り物とされ、神仏に奉納されたり祭礼に加わることもあります。願掛けやまじないには、絵馬や土馬・ワラ馬が用いられてきました。

本展では、祭礼で神馬が身に着けた馬具や、節句に飾る毛植細工の馬など、高槻市内に伝えられた馬に関する文化財とともに、各地で作られた馬の郷土玩具を展示します。

五月の節句玩具
「チンチンウマガワ」
(沖縄県 琉球張子)

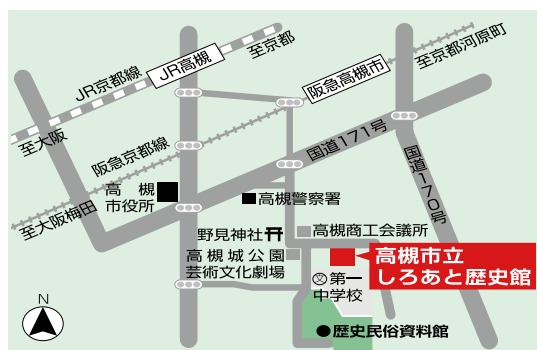
馬をねぎらう行事
「チャグチャグ馬コ」の玩具
(岩手県 六原張子)

馬上の軍人を
モチーフにした玩具
(広島県 常石張子)
(熊本県 宇土張子)

笠寺観音の縁起物
豊作・厄除けを願う
「ふく馬」(愛知県)

馬を描いた絵馬
(香川県)(埼玉県)
(東京都)(奈良県)

端午節句の武者人形
馬乗り加藤清正
(佐賀県 弓野人形)



■交通
阪急京都線 高槻市駅から徒歩約10分
JR京都線 高槻駅から徒歩約15分
※ご来館には、環境にやさしい
公共交通機関をご利用ください

高槻市立 **しろあ** 歴史館
TAKATSUKISHIROATO
HISTORICAL MUSEUM

〒569-0075 大阪府高槻市城内町 1-7
<https://www.city.takatsuki.osaka.jp/site/history/list9.html>
☎ 072-673-3987

